

Tajima floor coloring system Eternal Palettes

Feature Article
病院特集 Case 1-3

3
vol.

…らしくない病院をつくる
陽射しに映える床づくり

楽しいキャラクター、オーシャンビューの病室、
新しくなったピカピカの床、
開放感のはじまりは足元から。





ACフロアEM雲 + オリフィ

Hospital Case 01 床・壁・天井をまとめるグラフィックのチカラ

富山県リハビリテーション病院・こども支援センター

〔設計〕 佐藤総合計画・創建築事務所設計共同体

コエルくん、ライちゃん、カモシーが空を舞い、
壁に躍るこども支援センターの交流スペース。
明るい縁側を持つリハビリ病院の病室。
富山の自然に根ざした病院はわくわく感にあふれています。



ここから始まるユニバーサルケアタウン

設計を担当した佐藤総合計画が掲げたコンセプトは、個々の医療・福祉施設が連携し、障がい者や患者だけでなく、健常者にも優しい街「ユニバーサルケアタウン」。雄大な立山連峰を背景に、富山湾を望む富山市の郊外にオープンした「富山県リハビリテーション病院・こども支援センター」が目指したのは、回復期のリハビリを主体とした、急性期病院との連携による切れ目のない医療の提供と、重度の心身障がいを持つこどもや、増加している発達障害のあるこどもへの地域支援体制の強化。

「富山では、日照時間が限られるため、住宅では縁側を設けて陽光を取り入れます。リハビリ病棟の4床室では、縁側のようなファミリーラウンジを設け、お見舞いに訪れた方々が集える場所をつくりました」と松本さん。病院とは思えないほど暖かい陽光に包まれています。

こども支援センターには、キャラクターが躍っています。「こども達にとって、病院は不安でいっぱいです。施設に入った瞬間から、少しでも楽しい気持ちになれるよう、名古屋市立大の鈴木賢一研究室のアート制作チームは、カエルのコエルくん、ライチョウのライちゃん、

カモシカのカモシーといったキャラクターを考案し、交流ロビーの床、壁、天井には富山を冒険する彼らの姿が吹き抜け一杯に描かれています」と三堂さん。

「JVを組んだ地元の創建築とも一緒になって、額縁に納まった立派な芸術作品を飾るより、こども達が楽しめるような優しい環境をつくるのが第一でした」とこども目線で、室殿さんは語ります。

新しい試みはこれだけではありません。首都大学東京の竹宮教授に依頼し、利用状況調査を実施して、児童や職員が施設内のどこで、どれだけの時間を過ごしているのかをモニタリング。新旧施設内での過ごし方を比較することで、何がうまくいき、何を改善すべきかが客観的に示されます。

「医療用語でいうエビデンスですね。きちんと調査し、根拠を残すことが今後の進歩につながり、更なる検証の積み重ねが、よりよい施設を生み出します」と室殿さん。ユニバーサルケアタウンの実現に向けた試みはこれからも続きます。

富山県リハビリテーション病院・こども支援センター

所在地：富山県富山市下飯野36番地
設計監理：佐藤総合計画・創建築事務所設計共同体
施工：佐藤工業・前田建設工業・日本海建興JV、近藤建設・相澤建設・竹原工務店JVほか
床工事：第一交易、だるま堂
構造：SRC造（一部RC・S造）・地上6階
延床面積：19,337.16m²

[設計] 佐藤総合計画・創建築事務所設計共同体

佐藤総合計画 室殿 一哉（むろとの かずや）
三堂 早紀子（みつどう さきこ）
松本 健（まつもと けん）
創建築事務所 藤井 均（ふじい ひとし）
和田 行弘（わだ ゆきひろ）
高畑 純（たかはた じゅん）



※お名前
右から



リハビリテーション病院のホスピタルモールでは、天然素材から作られたリノリウムの床材を使用



リハビリテーション病院の病室・ファミリーラウンジからは、柔らかな陽射しが差しこむ（ACフロア）



デザインフィルムで作成した
コエル君のフットプリント



アート制作チームによる
絵本的一幕



マジエスタ

Hospital Case 02 木目や石調で編む床づくり

医療法人伊豆七海会 熱海 海が見える病院

[内装デザイン] up arrow

[設計] 内藤建築事務所

市街の街並みを抜け、
熱海梅園から歴史的街道の頼朝ラインを上った中腹に
海が見える病院があります。
各部屋から海を臨む絶好のロケーション。
リゾート感の演出に役立つ床づくりとは…





屋上から望む熱海市街と太平洋

リゾート感を生み出す床づくり

熱海市街から車で10分。相模湾を見下ろす高台に、医療法人伊豆七海会が運営する「熱海 海見える病院」が誕生しました。

「病院のプログラムは、法律などの諸条件で決まりますが、各病床の設備機器など、実際のオペレーションに関するものは、モックアップを製作して決めました」と設計担当の内藤建築事務所 小倉さん。経験豊かな看護部長、現場を任される看護師、円滑な病院運営を任される職員との活発な意見交換を経て、設計が進められました。

デザインコンセプトは「リゾート」。入所者をはじめ、職員、お見舞いに訪れる家族が、「わくわく感」を抱く施設づくりが求められました。

内外装のデザインを担当したup arrowの矢口さんは、「療養病棟となる5・6階は落ち着いた雰囲気、4階の一般病棟、3階のリハビリ室・食堂室・談話室は活発な雰囲気になるよう、色合いを整えました。フレキシブルなイス配置や、海が見えるカーテンデザインは看護部長のアイデアからコーディネートしました。これらを建築に馴染ませながら、海を基調としたブルーでまとめました」と統一感の秘訣を披露。

「本物のフローリングや石の貼り方を意識して、木目のシートを短冊形に裁断、石の柄のシートと組み合わせるなど、シートならではの使い方で床にアクセントを加えました。この

ように貼ることで、溶接目地も目立たないようにになります」と語る矢口さん。経験から得た床デザインが光ります。

海見える東面からは、自然光がふんだんに注がれるため、わずかな床の凹凸でも影となって現れます。そこは施工者も心得たもの。念には念を入れて、平滑な下地づくりを心がけました。

施主、設計、施工者が三位一体となってつくり上げた熱海 海見える病院。あふれる陽光と豊かな眺望が、健康を願う患者さんやご家族に勇気を与えてくれることでしょう。



熱海の海を眼下に見降ろす明るい病室(マジェスタ)



磁器タイルで仕上げられたスタッフ専用のパウダールーム



2種の色・柄で貼り分けられた廊下・EVホール(マジェスタ)

医療法人伊豆七海会 熱海 海見える病院

所在地：静岡県熱海市熱海1843-1
 設計：内藤建築事務所
 内装：up arrow
 施工：村本建設
 床工事：コロナ工業 沼津支店
 構造：RC造 地下3階・地上3階・PH階
 延床面積：5,245.70m²

〔設計〕 内藤建築事務所



小倉 謙二(おくら けんじ)
 1969年千葉県出身/1992年
 日本大学生産工学部建築工学科
 卒業/現在 東京事務所 設計室
 チームリーダー

〔内装〕 up arrow



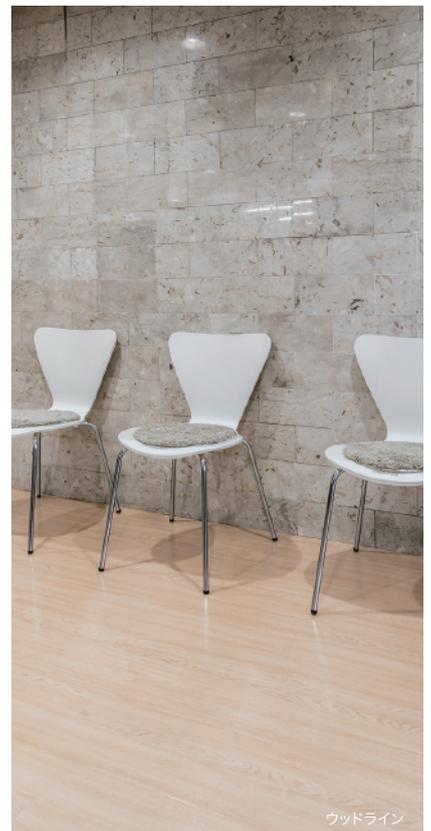
矢口 ゆかり(やぐち ゆかり)
 1968年神奈川県出身/1991年
 ICSカレッジオブアーツ インテリア
 アーキテクチャー&デザイン科
 卒業/2010年デザイン事務所
 up arrow設立/現在、主に医療
 福祉建築のデザインに携わる



Hospital Case 03 優しさに包まれたクリニックへ

医療法人社団 杏仁会 なかむら外科内科クリニック

開業から間もなく40年が経つ街の病院。
事業継承という大きなうねりを迎え、
新しい医院長が打った手は、診療科目の増設とリニューアル。
新しい一歩を支える床材とは…





フロアフィックス



パーマリュウム ストリート

左:木目調のビニル床タイル ウッドラインで、あたたかい印象の床に生まれ変わった待合室
 中:居ながら改修の主役「フロアフィックス」
 右:躯体の段差を無くし、バリアフリー化

石から木へ、事業継承にかけた想い

福島駅から車で5分、歩いて15分と好立地に建つ「なかむら外科内科クリニック」。1977年(昭52)年に開業した医療法人社団 杏仁会中村外科医院として始まりましたが、2016年に事業を継承。診療科目を増設して内装をリニューアル。名称も改め、新しい一歩を踏み出しました。

乳腺・甲状腺外科を加えて標榜したことで、女性の来院増が見込まれたため、ゴールドウィークを利用した内装工事が決定。短期間に集中して必要最低限の施工を行い、その他の箇所については「居ながら改修」が計画されました。

「これからは、女性の患者さんが多くいらっしゃいます。内装のリニューアルで、まず心がけたのは清潔感でした」と運営を引き継いだ中村医院長。心の中に新しく描いた空間は、「木」に包まれた優しいクリニックの姿でした。

とはいうものの、開院以来初の改修工事とあって、トイレのバリアフリー化など、躯体に手を入れざるを得ない大掛かりな施工が必要な箇所もありました。時間が限られたなか、材料・工法の選択を細やかに行うことで、全体のバランスを調整し、リニューアルオープンに

間に合わせました。

患者さんの印象を大きく左右するのが待合室。床は木目調のビニル床タイル「ウッドライン」。受付の面台や建具も木目で統一、端正に積まれた大理石の壁を残すことで歴史の継承も実現。仕上げは、医院長がセレクトした北欧のデザインチェア。優しさにあふれる空間に生まれ変わりました。

オープン後の施工となった廊下や、医療機器の移動が難しい場所で活躍したのは、既存の床を剥がさず、接着剤も使わずに施工できる置き敷きタイル「フロアフィックス」。小面積を「すきま時間」で施工する効率的なポイント改修が全体のリニューアルを可能にしました。

「顔の見える・信頼と安心をあてえられるクリニック」を実現するために、あえて小さなクリニックで、専門医が診療することを実践しているなかむら外科内科クリニック。中村泉医院長は今日も地域の健康を見守ります。



医療法人社団 杏仁会
 なかむら外科内科クリニック

所在地: 福島県福島市宮下町15-18

施工: 松崎建設株式会社

床工事: 日東物産株式会社

院長 中村 泉 (なかむら いずみ)

平成5年より福島県立医科大学にて臨床・研究に従事、消化器(食道・胃・大腸・肛門・肝胆膵)、乳腺・甲状腺・内分泌疾患を専門とする。福島県立医科大学器官制御外科学講座 講師、准教授を経て現職。

福島医大 多能性幹細胞研究講座 特任教授兼務



Tajima floor coloring system Eternal Palettes

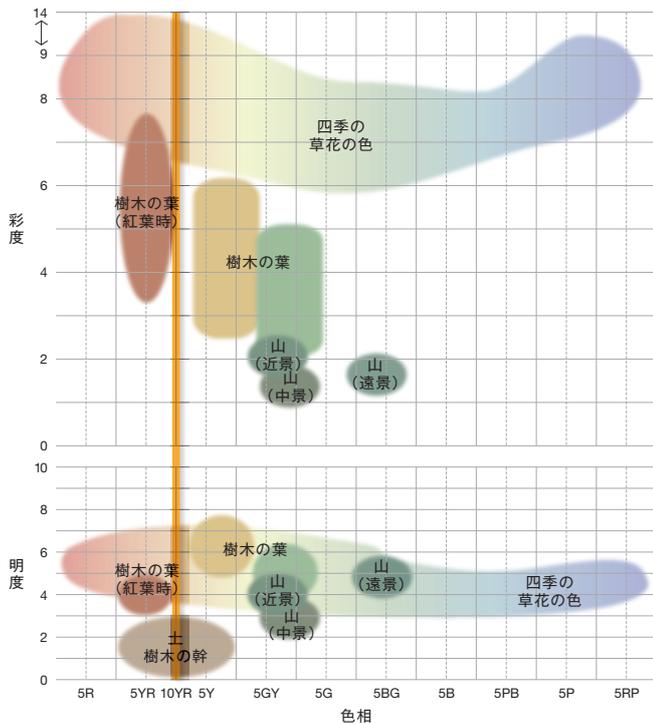
田島ルーフィングでは床材の色構成を構築する上で、「空間の色彩的調和」をつくることを目的とした「エターナル・パレット」という概念を用いています。

土や砂、樹木の幹といったアースカラーを始めとし、建築物などの都市景観に見られる多くの色を「マンセル表色系」を用いて体系化。それらを床材のカラーに反映させることにより「空間の色彩的調和」をつくるロングライフデザイン商品を提案します。

エターナル・パレットは、自然やその土地で長く育まれてきた景観の中から抽出した色で構成されています。

自然界にある基調色

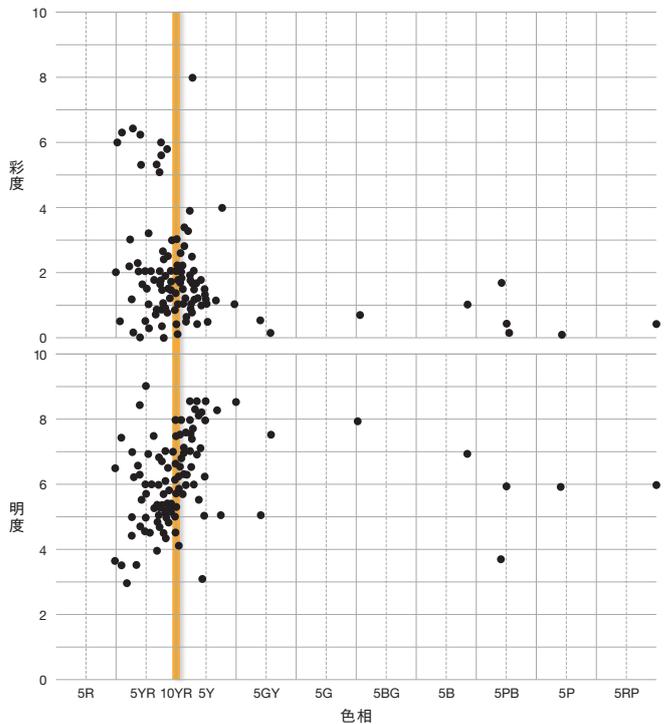
[図1]は季節によって変化する自然景観の色彩を表したものです。樹木の緑や草花の色には大きな変化がみられますが、その一方で、土や砂、樹木の幹などの変化の少ない色は、10YR系を中心とした色相の色範囲にまとまっています。これらの色は自然景観の中で大きな面積を占め、四季折々に変化を見せる樹木の緑や草花の色彩を引き立てる、自然界の基調色といえます。



[図1] 四季により移り変わる自然景観色

都市の中にも多くある色彩

都市の中にある建築の外装色を見ると、自然界の土や砂や石の色彩分布と同様に10YR系周辺の色相範囲に収まっています[図2]。それは、石や土、砂、木は古くから建物の素材として用いられ建築物の色彩の中心色相として受け継がれてきたからといえます。新しい建材が次々と作りだされる今も、自然素材と同じ色彩が広く使われているのです。



[図2] 都市部の建築外装色データ分析例

出典：10YR CLUB/©CLIMAT

未来に開かれた病院の床 — 開放感を生み出す床づくりとは —

「病院って、どんなところ？」と問えば、細長い廊下と、機能優先の診察室。そして、白い壁に包まれた素っ気ない病室…という答えが当たり前でした。しかし、今回ご紹介した3つの病院は、このようなイメージでは語れない「らしくない」空間の持ち主たち。陽射しを取り入れ、木目や石調の床を敷き、

キャラクターが楽しさを演出。明るい陽射しと明るい内装が、患者さん、ご家族、そして診療や介護にあたるスタッフに勇気を与えます。開放感にあふれた親しみやすい病院へ。

多彩な表現と安全に配慮した機能を持つ床材が、空間づくりの一翼を担います。

